

説明文の理解における 読み手の知識とテキストの関連づけに関する検討

中尾 彩

説明文の理解では、読み手のテキストに関連する知識とテキストとの関連づけが説明文を深く理解するために重要であるとされている。関連づけを検討することにより、説明文を深く理解するための関連づけを利用した支援が可能になると考えられる。

本研究では、どのような読み手の事前の知識(量・内容)や知識とテキストの関連づけが説明文の理解に影響しているのか、内容理解度ごとのマインドマップ(MM)の比較により検討することを目的としていた。目的の検討のため、2種類の説明文を用いて調査を行った。

調査 1(対象者：男性 4 名、女性 8 名)では「溶解度と海流」(自然科学分野)、調査 2(対象者：男性 4 名、女性 8 名)では「需要と供給」(社会科学分野)の 2 種類のテキストを使用した。対象者には、テキストを読み、内容理解テストへの解答を求めた。また、テキストを読む事前・事後に MM の作成を求め、MM の内容について補足インタビューを行った。

対象者をテストの合計得点により内容理解度高群・低群に分け、次の MM 要素の差を検討した。事前 MM では読み手の事前の知識の特徴を検討するため、似た知識をまとめてカテゴリー化した。事後 MM ではテキストを読んだ後の読み手の知識について、メインブランチ(MB)とサブブランチ(SB)の具体的内容から分析した。MB とは、テーマに関する多くの知識を包括する上位概念であり、SB はその下位につながる詳細な知識である。テキストの中心的内容のキーワード(例：寒流、酸素)を設定し、具体的内容とキーワードを照らし合わせて分析することでテキスト中の情報の理解を検討した。

両調査で、内容理解度高群・低群による事前の知識量やテキストを読んだ後の知識量に差は見られなかった。MM 内容の分析の結果、調査 1 では、事前の知識が 3 つのカテゴリーにまとめられ、高群では構成として「学問的知識(多)」「連想(少)」の組み合わせが多く、低群ではその逆の組み合わせが多かった。また、低群のほうが SB でよりテキストの中心的内容を再生できていた。一方、調査 2 では、高群はより事前にテキストの中心的内容の一部を思い出しており、事後 MM の SB で中心的内容を再生している読み手が多かった。

以上の結果から、事前の知識量は内容理解度に影響しない可能性が示唆された。また、事前の知識内容について、「学問的知識」と「連想」のバランスが内容理解に影響する可能性が示唆された。また、事前にテキストの中心的内容の一部を事前に想起しテキストと関連づけることができた場合に、説明文の内容理解が促進される可能性が示唆された。さらに、調査 1・2 で結果が異なったことから、テキストのテーマや読み手の個人差、その関係性によっても、内容理解に効果のある事前の知識の内容が異なる可能性が考えられた。

今後の課題として、テキストの扱う中心テーマや内容理解に関わる読み手の個人差について、またそれらの関係性と内容理解を促進する知識との関係などについてさらなる検討が可能であると考えられる。

(指導教員 鈴木佳苗)